

第7回 NPO 法人新住協 通常総会及び全国研修会レポート

札幌支部 菊澤里志

数年前の新住協札幌総会に参加して以来、久しぶりに参加しました。最初は開催地が京都と聞きびっくりしましたが、北海道の鎌田先生から出発した技術が西日本まで更には九州まで響き渡っている事に、先生及び事務局の偉大さに感銘を受けた次第です。

総会の先生の基調講演においては、住まいを科学し続けた結果が今にあり、Q1.0プロジェクトを完成させ、Q1.0-Xへと発展し続けているのだと思います。データに基づき研究に研究を重ね、更に重箱の隅をつつく程の細かなところまで追求された結果がQ1.0-Xであるわけですね。弊社も今後のQ1.0-Xゼミに参加し、一刻も早くこの技術・理論に基づいた住宅（できればGrade4）を建ててみたいと思います。

私感ですが、特に北海道人は、厳寒地故暖かい住宅には興味があり、そしてそれを求めますが、住宅以外の省エネ・省CO2においては意識がかなり薄いと感じています。特に車においては、コンビニ等でのエンジンのかけっぱなし、長時間にわたる暖機運転など、他の他府県では考えられないほど意識が低いと思います。是非北海道の住宅業界から、Q1.0-Xを成功させ、北海道民における住宅以外の省エネ・省CO2が高められたらとも思います。



内田祥哉先生の記念講演では、木造住宅の歴史・変遷、そして将来を見据えた講演を頂きました。今我々が建てている住宅の根源は？根拠は？という事を改めて考えさせられ、そして、将来・次世代に向けた木造住宅づくり、資源づくりをしていかなければ、後世が続いていけないという事、自分たちだけが良いという考えではいけないという事を意識づけて頂きました。

断熱耐震同時改修プロジェクトの発表ですが、弊社は今回対象となるお客様がいなかったため、参加しませんでした。やはりやらなければ刀も錆びます。今年は、補助金の有無に関係なく、お客様にアプローチしていこうと考えました。

会沢事務局長の実体験も、大変な苦勞をされているにも関わらず、データを取って頂き、これぞ本当の高断熱住宅の成果なんだという事を知らしめて下さったことには大変感謝しました。早速お客様にもその話をしましたら、今より暖かければいいんだという方でしたが、考えが変わったようです。

最終日はお客様との打合せが入っており出席できませんでしたが、京都総会に出席させて頂いた札幌支部の皆さんに御礼を申し上げます。

最後に、日本の住宅技術をここまで進化させて頂いた鎌田先生、会沢さんを筆頭とする事務局の皆さま、データ取りや実験住宅などを提供頂いた会員の皆さまに感謝しております。

弊社も新住協なくして今のキクザワはないと思って日々社業を務めております。

ますますの、NPO 法人新住協の発展を祈念し、そのためには出来る限りのお手伝いはさせて頂きたいと考えております。

札幌支部 株式会社キクザワ 菊澤里志